



VOL. 21 No. 4 The University of the Ryukyus Library Bulletin. 1988. 12. 1

インカレ・セミナー雑感

江上能義

インドネシアとシンガポールの駆け足の旅から帰ってきたばかりで、まだ頭がボーッとしたまま、ペンをとっている。

インターカレッジ・セミナー、すなわち大学間の交流セミナーに自主ゼミとして取り組み始めてから早いもので、もう10年になる。きっかけは、「学生たちに沖縄問題を学習させているので、是非、琉大の学生たちと討論させたい」という早稲田大学の岡沢教授からの申し出だった。1979（昭和54）年、もちろん首里キャンパスの時代である。私はまだ沖縄に赴任して間もなく、沖縄の諸問題に関する知識も何もないので、ほったらかしていた。

ところが早大の一人の学生が8月の夏の真っ盛りに、汗びっしょりになって首里金城町の私のアパートを捜し当て、再度、頼みに来た。その迫力に驚いて私自身の沖縄の勉強のためにもと承諾し、

目次

インカレ・セミナー雑感(江上能義) ……	1
昭和63年度九州地区国立大学図書館協議会 実務者連絡会議について ……	3
お知らせ・年末年始の休館及び開館時間・	4
1989年度新規中止購入雑誌(洋・和) ……	5
新着ニュース ……	8
電算化日録 ……	9

第2回国立大学図書館協議会 シンポジウム(西会場)参加報告 (本郷清次郎) ……	9
視聴覚機器専門委員会について ……	10
学外への文献複写依頼について ……	14
図書館事情 ……	16
医学分館コーナー ……	18
ブラウジング・コーナー ……	20

琉大の学生たちに呼びかけたのである。

岡沢ゼミとのインカレ・ゼミナーを初めて経験してみて、これが琉大の学生たちにとっても、いくつかの利点があることがわかった。第一に、東京の学生との認識の相違点と共通点を意見交換の中から身をもって実感できること、第二に、自分の意見を討論の場で十分に表現できる能力の必要性を痛感できること、第三に、考え方は異なっても若者同士はすぐにうち溶け合って友情が生まれ、そのことによって琉大の学生が上京する時に拠点が確保できること!!

岡沢ゼミは今年3月を含めてこれまで6回来沖し、さまざまなテーマで私たちのゼミと論争した。米軍基地、いびつな沖縄経済、沖縄の自立、沖縄からの国際交流などについて、その都度私たちも事前に文献に目を通し中間発表を積み重ねてから早大とのセミナーに臨んだ。ゼミ活動を通して私が一番驚いたのは、琉大の学生たちが自主的に実によく勉強することであった。連日の徹夜も辞さず、彼らは延々と学習し討論するのである。そのエネルギッシュなパワーに正直言って、私はしばしば圧倒される。必要と判断した場合には自分たちで意識調査を実施し集計結果を分析した。資金がないので人海戦術だけが頼りである。

東京に出向いて早稲田、慶応、明治、学習院などの大学の合同セミナーで「天皇制と沖縄」、「沖縄からアジアを考える」などのテーマで研究発表したこともある。沖人や沖国大とも何回かセミナーをもった。今年の5月には中京の檜山ゼミと「沖縄戦」をめぐって論議をめしたが、琉大の学生たちも互角以上に渡り合い、かつての学生よりも表現能力を身につけてきたのではないかと思った。

5年前から中華民国（台湾）の中国文化大学との交流をきっかけに、海を隔てて隣接するアジアの国々に出かけ、アジアの若者たちと意見交換するようになった。フィリピンのアラネオ・デ・マニラ大学、タイのタマサート大学、そして今回のインドネシア大学の学生たちと交流を重ねてきた。もちろん数カ月をかけて出発前に各国の政治、経済、社会、文化などの多面にわたってゼミ生たちは学習し、現地においてその知識を自らの五感で確認する。

沖縄の若者たちにとって、国内だろうが国外だろうがあまり関係なく、言葉の障害など吹き飛ばす屈託のない若者同士の交歓風景は傍で見ているにも実に楽しい。またアジアの若者たちにまじると、沖縄の若者たちはほとんど判別がつかない位に見事に溶け込んでいく。

海外への、とりわけ初めての国へのゼミ旅行は筋書のないドラマでもあり、思いがけない出会いとハプニングがある。また、いろんな人々の好意に感激することも多い。20名を越すグループでの旅行はスケジュールの過密さもあって、皆をクタクタに疲れさせて帰国させる結果となるが、それでも1週間もたつと、また出かけたくなるから不思議である。

各セミナーが終了すると、必ず研究成果や旅行体験などを報告書として本にまとめるようにしている。印刷費にお金がかかるが、法文学部の教育後援会やゼミのOB・OGから援助してもらい。

これまたゼミ生たちは自分たちの研究活動の証しを数カ月かけて協力し合って印刷までこぎつける。セミナーを迎える準備も大変だが、終了後の報告書の作成にも相当なエネルギーを要するのである。完成した報告書は国会図書館をはじめ主要な大学の図書館に郵送している。琉大の図書館にも何冊か置いてもらっている。

私たちのゼミ活動は琉大の図書館をぬきにしては考えられない。沖縄のさまざまなテーマについては郷土資料室の書物から数多くの知識を得た。またアジア諸国に関する知識の修得にあたっては、アジア・コーナーの図書に大変お世話になっている。このように琉大図書館の数多くの図書による助力がなければ、セミナーに向けての事前の準備作業と事後の研究報告書作成は困難であったろう。

ゼミ活動のために私たちが借り出している図書を他の学生が読みたくても読めずに迷惑をかけているのではないかと、いつも心の中で申し訳なく思いながら図書館を利用させてもらっている。願わくばアジア関係の和書がもっと数多く出版され、それらがアジア・コーナーをいっそう充実させてほしい。アジア以外にも沖縄と関連の深い南米や太平洋諸国の文献もっと充実してそれぞれのコーナーが開設されるようになれば、図書館の魅力は増幅されるだろう。

図書館のスタッフの皆さんと蔵書に対して私たちのゼミ一同から深い感謝の念を捧げ、拙文を終らせていただきます。
(えがみ たかよし：法文学部助教授・政治学専攻)

昭和63年度九州地区国立大学図書館 協議会実務者連絡会議について

標記の会議は、10月28日(金)午前9時から午後4時半まで、図書館会議室で開催され、下記の事項について活発な討議が行われた。

なお当日は討議にはいる前に文部省学術国際局学術情報課大学図書館係長船戸輝久氏による所管事項の説明があった。

討議事項

- (1) 学術情報センター目録システムのデータ構築と研修について (提出館 大分大学)
- (2) 資料の受入区分について (提出館 鹿屋体育大学)
- (3) 学生・研究者の国際交流及び留学生の受入に伴い、図書館の資料整備について (提出館 鹿屋体育大学)
- (4) 外国雑誌の契約方法について (提出館 鹿屋体育大学)
- (5) 外国図書・雑誌の購入に係る予定価格について (提出館 佐賀大学)

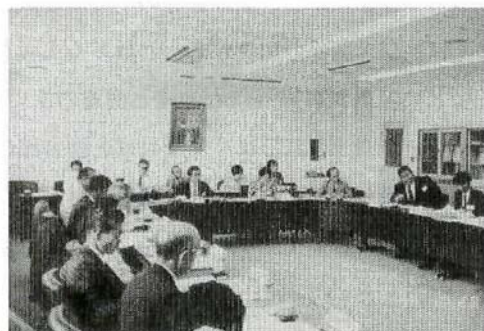
- (6) 外国雑誌の年度末精算後の支払方法について (提出館 鹿児島大学)
- (7) 相互貸借について (提出館 九州大学)
- (8) 利用教育・利用指導について (提出館 鹿屋体育大学)
- (9) ビデオによるオリエンテーションの実施について (提出館 琉球大学)
- (10) 職員の研修について (提出館 鹿屋体育大学)

3. その他

- (1) 佐賀大学から図書館実習の謝金の措置について発言があり、他大学から実情報告があった。
- (2) 琉球大学から新規雑誌の業者への割り振りについて発言があり、他大学から参考意見が述べられた。



討議スナップ(1)



討議スナップ(2)

お知らせ

年末年始の休館及び開館時間(本館・医学部分館)

12月26日(月)	}	開館	08:30~17:00
12月27日(火)			
12月28日(水)~1月4日(木) 年末年始のため休館			
1月5日(木)	開館	08:30~17:00	
1月6日(金)より夜間開館			
	月~金	08:30~21:00	
	土	08:30~17:00	

1989年度新規購入外国雑誌

誌名	刊期	発行国	購入学科
1 Adverse Drug Reaction and Acute Poisoning Review	Q	英国	医学 コアジャーナル
2 American Educational Research Journal	Q	米国	法文 教育心理
3 American Journal of Clinical Oncology	B—M	米国	医学 コアジャーナル
4 American Journal of Neuroradiology	B—M	米国	医学 脳神経学
5 The American Journal of Sports Medicine	M	米国	教育 保健体育
6 The American Sociologist	Q	米国	法文 教育心理
7 Annual Review of Immunology	A	米国	医学 コアジャーナル
8 Archiv für Sozialgeschichte	A	西独	法文 法政
9 Arzneimittel - Forschung / Drug Research	M	ドイツ	医学 コアジャーナル
10 Blood Cell	3N	ドイツ	医学 コアジャーナル
11 British Journal of Sociology of Education	4N	英国	法文 教育心理
12 CA Selects - Carbon & Heteroatom NMR	26N	米国	教養 化学
13 Contemporary Southeast Asia	4N	シンガポール	法文 法政
14 Developmental Neuroscience	B—M	CHE	医学 コアジャーナル
15 Diagnostic Imaging	B—M	スイス	医学 放射線
16 Dynamics of Atmosphere and Oceans	4N	オランダ	理学 海洋
17 Earth Surface Process and Landforms	4N	英国	教養 地理
18 Econometric Reviews	2N	米国	短大 法経
19 German Yearbook of International Law	A	西独	法文 法政
20 IEEE Transactions Geoscience and Remote Sensing	B—M	英国	理学 海洋
21 Immunology Today	12N+1N	オランダ	医学 コアジャーナル
22 International Journal of Remote Sensing	M	英国	理学 海洋
23 International Journal of Tissue Reactions Experimental & Clinical Aspects	Q	CHE	医学 コアジャーナル
24 International Social Science Journal	Q	米国	法文 教育心理
25 Italian Yearbook of International Law	A	伊	法文 法政
26 Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism	B—M	米国	医学 脳神経学
27 Journal of the Japanese and International Economies	4N	米国	法文 経済

28	Journal of Medical Ethics	Q	英 国	医学	コアジャーナル
29	Journal of Neuroscience Methods	12N	オランダ	医学	脳神経学
30	Journal of Nursing Education	9 N	米 国	保健	看護学
31	Journal of Vascular Surgery	B—M	米 国	医学	コアジャーナル
32	Magnetic Resonance Imaging	B—M	英 国	医学	放射線
33	Medical Physics	B—M	米 国	医学	放射線
34	MIMAR	Q		工学	建設工学
35	Mineral and Electrolyte Metabolism	6 N	CHE	医学	コアジャーナル
36	Nutrition Reports International	M	米 国	保健	栄養学
37	Nutrition Research	M	米 国	保健	栄養学
38	Phronesis	A	オランダ	教養	人文
39	Physics Today	M	米 国	教育	数学
40	Plant Systematic and Evolution	16N	西 独	理学	生物
41	Psychophysiology	B—M	米 国	医学	コアジャーナル
42	Scandinavian J. of Work, Enviromental & Health	B—M	FI	医学	コアジャーナル
43	Schizophrenia Bulletin- National Institute of Mental Health	Q		医学	精神神経科学
44	Sociology of Education	Q	米 国	法文	教育心理
45	Solid State Ionics	9 N	オランダ	理学	物理
46	Southeast Asian Journal of Social Science	S—A	シンガポール	法文	法政
47	Spectator	W	英 国	教養	外国語
48	Virginia Journal of International Law	Q	米 国	法文	法政
49	九十年代	M	香 港	法文	法政
50	百姓	M	香 港	法文	法政

1989年度新規購入和雑誌

	誌 名	刊 期	購入学科
1	現代とリハビリテーション	4 N	保健 看護学
2	住宅建築	M	工学 建設工学
3	新建築住宅特集	M	工学 建設工学

4	地 形	Q	教養 地理
5	日本スポーツ心理学研究	A	教育 保健体育
6	臨床血液	M	医学 生化学/生理学第一
7	レヴァイアサン	2N	法文 法政
8	Analytical Science	B-M	理学 化学
9	JSME International Journal	M	工学 機械工学
10	月刊日本語	M	図書館

1989年度購入中止外国雑誌

誌 名	誌 名
1 Acta Chemica Scandinavica Ser. A	19 Journal of Neurosurgical Science
2 American Journal of Orthopsychitry	20 Journal of Regional Science
3 American Pharmacy	21 Linguistics
4 Applied Radiology	22 Mathematical Geology (F: J. of the International Association for Mathematical Geology)
5 Artery	23 Nueva Seta Feta
6 Bulletin of Menninger Clinic	24 Nursing Times/ Nursing Mirror
7 Canadian Nurse	25 Ocean Physics and Engineering
8 Cognition in Music	26 Psychology in Schools
9 Core J. in Ophthalmology	27 Radiography
10 Current Surgery	28 Radiologic Technology
11 Environmental Health Perspectives	29 Reuse Recycle
12 Fortschritte auf der Roentgenstrahlen und Nuklearmedizin	30 Revista de Estudios Hispanicas
13 Hispania	31 Revista de Occidente
14 Hospitals	32 Sprachpflege
15 Independent Restaurants (Formerly : Food Service Marketing)	33 Synthetic Communications
16 International Journal of Psychoanalysis	34 Theoria
17 Journal of Human Evolution	35 Tropical Diseases Bulletin
18 Journal of Molecular Spectrscopy	36 Werk Bauen + Wohnen

1989年度購入中止和雑誌

誌名	誌名
1 教育と医学	7 日本透析療法学会誌
2 精神神経学雑誌	8 発達の遅れと教育
3 石膏と石灰	9 発達障害研究
4 繊維科学	10 臨床栄養
5 デイテール	11 Okajima Folia Anatomica Japonica
6 日本海水学学会誌	

新着ニュース

「沖縄県全域カラー空中写真集—宮古島地区」

附属図書館では、このたび「沖縄県全域カラー空中写真集—宮古島地区」(建設省国土地理院撮影)を受入れました。

これは、サイズが、24cm×24cmの密着焼印画で、ポイントごとに上空1500mの空中から撮影したカラー写真です。

この空中写真集は、地理学、生物学、海洋科学、農学等には研究上、欠かせない資料といわれ、立体鏡を利用することにより、地形を立体的にみることができ、また地質、土壌、植生、海洋、及び人文現象が全般的に把握できることから、フィールド調査を必要とするこれらの関係する分野の研究に役立つものと思われます。

今度、買ったものは限定地域であります。今後予算の状況をみながら、他の地域の分も継続して購入する予定にしております。

沖縄関係資料室に設置されますので、大いに御利用ください。

電算化日録

(昭和63年9月1日～11月20日)

学術情報係

- 9月7日(木) 運用連絡班会議(第12回)
- 12日(月) 図書館業務電算化委員会(第5回) (専用機、電算化課題等について)
- 21日(水) 運用連絡班会議(第13回)
- 図書館業務電算化委員会(第6回) (専用機、電算化課題等について)
- 10月5日(水) 運用連絡班会議(第14回)
- 19日(水) 運用連絡班会議(第15回)
- 24日(月) 昭和63年度第4回日録システム講習会 (~26日、学情センター、参加者:豊平)
- 25日(火) 富士通との打合せ(専用機に向けて、現状のトラブル等)
- 11月1日(火) 医分館業務モードに切替、10月受入分より登録開始
- 2日(水) 運用連絡班会議(第16回)
- 17日(木) 国立大学図書館協議会シンポジウム (~18日、神戸、参加者:本郷)

第2回国立大学図書館協議会シンポジウム(西会場) 参加報告

本郷 清次郎

11月17日から18日にかけて神戸・裏六甲にある関西地区大学セミナーハウスにおいて標記のシンポジウムが開催されました。

昨年の京都での第1回は「図書館業務のシステム化と目録システム」「相互協力活動の推進:現物貸借・文献複写、大学図書館の公開」と広範なテーマでしたが、今回は「学術情報システムに対応した最適のローカル(各大学図書館)システムは何か」という統一テーマのもとで4つのサブテーマについて各々3～5館からの事例報告があり、それぞれに討議が行われました。

事例報告・討議に入る前に、6月に出た「学術情報システム特別委員会ネットワーク専門委員会第二次報告:目録情報ネットワークの展開と大学図書館のシステム化」について名古屋大学図書館の牧村さんからの報告と解説がありました。従前のハウスキーピング主体の電算化からOPACが主流になってきている最近の大学図書館界の電算化の動向を知ることができました。続いて学術情報センターの郷端さんから目録システムの現状の報告がありました。目録システムは順調に発展しており、接続館が76になり登録レコード件数も100万件を越えたことや、年末年始にかけてハード面でのシステム変更があることなどが統計資料とニューズレターをもとに説明されました。

シンポジウムのサブテーマの一つ目は「学術情報センター目録システム・ソフトウェア (UIP)」で名古屋、大阪、広島、滋賀医科の各大学から事例報告がありました。学術情報センターの目録システムから自館に目録情報を取込むしかけなどについての報告があったのですが、ダウンロードには意外に時間がかからないようです。

二日目に入って、サブテーマの第二である「学術情報センター目録情報とローカルシステム目録情報」については京都、九州、金沢、神戸、香川の各大学から事例報告がありました。学術情報センターとの接続に関して、ケース1、2、3は機能の上下関係ではない、それぞれの大学の事情に合わせて適宜選択すべきであるといわれていますが、琉大と同じようにILISを使い始めている金沢大学からはケース1と2を併用している事例が報告されました。

サブテーマの第三は「OPACの性能」で東京、琉球、神戸商船の各大学から事例報告がありました。琉大からはURISONのしかけについての報告をおこないましたが、他2大学からは利用状況調査までをふくめての報告があり、単にしかけを提供するだけでなくその利用状況の把握まで行っておくことの必要性を痛感させられました。

サブテーマの第四「ハウスキーピング」については京都工芸繊維、山口、愛媛の各大学から事例報告がありました。各館とも色々工夫をこらしながらやっているようです。

各サブテーマごとに行われた討議の中で、京大の谷口さんから、各館のOPACはNACISIS-IRと競合しないだろうか、という質問があったのに対して、東大の石井さんが各館のローカル色を出すことによって解決するのではないかと明快に答えていたのが印象的でした。発表や討議を聞いて、参加者の皆さんの専門的知識の深さに驚かされました。我々もしっかり勉強して玩張らねば!!

(ほんごう せいじろう：学術情報係長)

視聴覚機器専門委員会について

図書館では図書館運営委員会の下に視聴覚機器専門委員会をおき、視聴覚室の充実を図るため機器の選択、運用について検討している。委員は、西平守孝教授(理)、喜屋武盛基教授(I)、秋永孝義助教授(農)、松田賀孝教授(法)および附属図書館長(委員長)である。

委員会は62年9月14日の第1回委員会を皮切りに3回開かれている。その間基本方針についての話合や視聴覚室の充実に関する学内アンケートの実施について協議された。アンケートの結果、各学科より下記のとおり機器設置の要望があることがわかった。

(1)ビデオ操影装置 (2)ビデオ再生装置 (3)ビデオ編集装置 (4)画像処理装置 (5)CDプレーヤー (6)ビデオディスクプレーヤー (7)スピーカー(商品質) (8)その他 ①貸出用ビデオテープ ②マ

マイクロフィルムリーダー機（高品質） ③スライド作製機 ④カセットデッキ ⑤CD利用可能なパソコンシステム ⑥マイクロフィッシュ自動検索装置 ⑦光ディスク文書ファイルシステム ⑧常時ビデオが見られる部屋とビデオセット ⑨ノア・ランドサットからの気象データ処理可能な画面処理装置 ⑩C A I装置。

これに対する図書館の見解は、次のとおりである。ビデオ撮影装置、再生装置、編集装置は医学部分館にかなり高度なものが既に設置されているので、それを使用することにしたい。中には図書館で維持管理していくにはかなり困難と思われる機器もある。理想的なものをつくるには、人員、技術、場所、予算等いろいろな問題が伴うので、現在の定員内で対応可能な機器の導入が望ましいと考えている。

このような図書館側の考え方を踏まえて、専門委員会では次の結論に達した。

- (1)共同利用可能な機器および資料の図書館への集中化を図る。
- (2)図書館で対応できるような機器とする。
- (3)A V資料（ソフト）を図書館で集中的に収集し、貸出しを行うなどA Vライブラリーセンターとしての機能を充実させる。
- (4)予算要求については、教育方法等改善経費による要求はなじまないもので、他の費目、方法で要求する。
- (5)情報化時代に向けての図書館のあり方について、本委員会で引き続き検討していく。

近年の情報の映像化はめまぐるしい。これに伴い図書館の収集対象資料も従来の図書形態資料だけでなく、ビデオ資料や、マイクロフィルム資料CD化された資料の収集等広範な広がりを見せている。加えてコンピューターによる所蔵資料のデータベース化と文献情報検索の多様化は、これまでの図書館の概念を一変させた。めまぐるしく変貌していく図書館をとりまく環境に対応できる設備の充実が要求される。その一環として視聴覚室の整備充実がある。 (参考調査係)

「視聴覚機器専門委員会」委員

委員長	附属図書館長
委員	
(自然科学系)	西平 守孝教授 (理)
	喜屋武盛基教授 (工)
	秋永 孝義助教授 (農)

(人文社会科学系) 松田 賀孝教授 (法)

第1回視聴覚機器専門委員会

昭和62年9月14日(月)15:30~17:00

議題:基本方針について その他

第2回視聴覚機器専門委員会

昭和63年3月10日(木)14:00~16:00

議題:アンケート調査の実施について その他

第3回視聴覚機器専門委員会

昭和63年6月9日(木)17:00~18:30

議題:アンケート調査の集計結果の検討および今後の図書館の方針について

附属図書館視聴覚機器一覧表

品名	規格	数量	備考
1. 制御卓	800×900×1200	1	リモートコントロール式
2. 映画映写機 (16MM)	350W×310	1	北振クセノン
3. 同上 (8MM)	エリモGS-1200	1	
4. リヤ式固定ミラー	150×200	1	リヤスクリーン用
5. OHP	スリーエムM-213	1	オーバーヘッド
6. OHPスクリーン	プラスWRE-150	1	プロジェクター
7. スピーカー	ビクターZ-5F	2	
8. カラーモニターテレビ	ビクターAV-26	2	カラー用
9. ビデオ卓	1200×100×800	1	タイプライター収納付
10. ビデオデッキ	U規格CR-6300	1	ビクター
11. 同上	VHS型HR-2200	1	ビクター
12. ビデオタイプライター	朋栄VTW-300	1	
13. ビデオカセット	ビクターCR-8200	1	
14. 同上	ビクターBR-6400	1	
15. 高速カセットレコーダー	スリーエム2772AV	1	
16. 教材提示装置	SCT-1、CV-S100	1	共栄
17. スライド作成機	ナショナルKV-5500	1	

18. スライドプロジェクター	コダック S-AV2020	1	
19. ポータブルビデオカメラ	ビクター CV-S100	1	
20. カメラ三脚	ビクター GA-26, 27	1	
21. マスター操作卓		1	語学演習装置
22. L. L. テープレコーダー		25	L. L. 室
23. ヘッドフォン		25	L. L. 室
24. キヤノンNPマチックプリンター	450 I I ネガタイプ	1	マイクロフィルムリーダー プリンター
25. 同 上	450 I I ポジタイプ	1	
26. マイクロフィッシュ複写機	キヤノン	1	リーダープリンター

医学部分館視聴覚機器一覧表

品 名	規 格	数 量	備 考
1. ジェンロッカー	ソニー SMC-70G	1	
2. カラーピクチャーモニター	◇ PVM-13710	1	
3. NTSCスーパーインボーター	◇ SMI-7074	1	
4. 2ドラディスクユニット	◇ IMI-7012A	1	
5. キャッシュディスクユニット	◇ SMI-7050	1	
6. 漢字ROキット	◇ SMK-0052	1	
7. 漢字ROMユニット	◇ SMI-7054	1	
8. ビデオタイザー	◇ SMI-7075	1	
9. モニタースタンド	◇ SMK-0091B	1	
10. BNCケーブルセット	◇ 70Gケーブル	1	
11. CP/M	◇ SMW-7072B	1	
12. 日本語ビデオタイプライター	◇ SMW-7074	1	
13. 英文ビデオタイプライター	◇ SMW-7070	1	
14. 映像音声分配器	◇ DA-210	2	
15. 同 上	◇ DA-500	1	
16. 映像音声切替器	◇ VCS-500	1	
17. エディティングコントローラー	◇ RM-E50	1	
18. ハイバンドハイファイ編集器	◇ GCS-50	1	ベーター

19. マトリクススイッチャー	SW-380	1	イメージクスK. K.
20. VHS電子編集機	ナショナルAG-6500	1	
21. エディティングレコーダー	ソニーVO-5850	2	U規格
22. ビデオレコーダー	〃 VO-5800	1	U規格
23. エディティングコントロールユニット	〃 RM-440	1	
24. マルチリモートコントロールユニット	〃 RM-555	1	
25. ビデオセレクター	〃 RM-V5	1	
26. 独習用デッキ	ソニーSL-HF900	4	
27. ビデオカメラ	〃 DXC-M3AK	1	
28. ポータブルビデオレコーダー	〃 VO-6800	1	
29. カラーモニターTV	ビクターAV-M210	3	
30. 同上	〃 AV-M150	4	
31. ビデオ用ブース	900×680×1200	4	
32. サウンドスライドシンガーカラーメイト		1	
33. パイオニアビデオディスクプレーヤー		1	

学外への文献複写依頼について —BLDS C紹介を含めて—

1. 文献複写による学外資料の入手

近年、情報量が飛躍的に増加し、また学問の細分化、専門化の傾向も強まるなかで、個々の図書館の蔵書のみで広汎な利用者のニーズに応えることはますます困難なものになってきております。とくに専門的な論文を書こうとする場合など求める資料が図書館になくてがっかりした経験は誰しもあるものでしょう。しかし、そうしたこともたびかさなれば、論文作成のために必要な情報収集に支障をきたし、またとくに洋書の場合、図書館に無いからといって個人での購入には、時間的、金銭的な制約が大きく、既刊の雑誌などではほとんど不可能ともいえます。こうした意味でも洋書の場合情報共有の場としての図書館の機能がいつそう期待される場所ですが、逆に、一館で収集できるのは、質、量ともに膨大な海外文献のごく一部にすぎません。

そこで洋書・和書ともに自館の不足を補い、利用者に十分なサービスを提供し、信頼ある図書館を運営すべく生まれたのが、「図書館相互協力」であり、年々さかんになってきていますが、利用者の方々のなかには図書館のそうしたサービスについて全く知らないという人も多いようですので、

今回はその概略を国内の場合と、海外への場合（BLDSC）に分けて紹介したいと思います。

まず国内の場合、たとえば求める資料が雑誌論文であれば、どこの大学がどの雑誌を所蔵しているかがわかる文部省編の「学術雑誌総合目録」（通称「学総目」）というものがあります。この学総目を検索して、当該雑誌を所蔵している図書館へコピーを依頼することによって2週間程でその文献を手に入れることができます。ちなみに昨年琉大から他機関への文献複写依頼は2000件程あり、そのうち参照不完等で戻ってきたものを除けば、約9割は送付されてきました。

しかし求める資料が雑誌論文でなく図書の場合、情報量が膨大になるため、検索はやや難しくなります。和図書の場合、国立国会図書館に申し込むのがかなり確かな手だてですが、収書年代によって目録が分冊されており、出版年がわからない場合検索に手間がかかり、また貸出しの場合館内閲覧が原則になっています。洋図館についても、国立国会図書館発行の“Union Catalog of Foreign Books”（新取洋書総合目録）というものがありますが、和国書と同じく出版年が不明の場合検索が手間どり、また学総目のように全国の大学図書館の蔵書が対象になっているわけではないのが難点です。

そこでそうした不便を解消し、図書館協力を充実させるために開発されたのが「学術情報センター目録システム」です。全国の大学図書館とオンラインで接続し、目録を共同作成し、所蔵資料を共有することで全国的な図書館ネットワークを形成するという計画は、着々と実現されつつあります。当館でも昭和61年よりそのネットワークに参加し、図書雑誌の書誌、所蔵検索を館内端末より行っています。

2. BLDSC

文部省では外国雑誌の収集のため、分野別に拠点外国雑誌センター館を指定し、世界で発行されている外国雑誌の網羅的な収集を図ってきています。例えば医学分野は東大、阪大、東北大、九大、農学系は鹿大、東大農、北大、理工学分野は東工大、人文社会学系は一橋大、神戸大、というように。従って比較的新しい雑誌については、国内ではほぼ充足できるはずですが、それでもなおかつ国内に所在していない文献については、BLDSC (British Library Document Supply Centre) に複写を申し込むことができます。BLDSCとは、英国図書館の主要機関の一つであり、依頼をすると、2週間前後で複写を郵送してくれるサービスを行っています。1日に約12,000件の依頼を処理するという迅速なサービス体制と、英文を中心とした世界80カ国以上の逐刊物をはじめ、広汎かつ専門性に富んだ資料を有しています。逐次刊行物は現在56,000タイトル、所蔵総数は15万タイトルを超えており、他に参考部門の20万タイトルも利用可能です。単行本の蔵書数は225万冊を超え、年間約10万冊ずつ増加しています。ちなみに63年度、当館からのコピー依頼に対する充足率は29件中27件です。費用は10ページ単位でクーポン券1枚＝約1100円とやや割高ですが、郵送料が含まれています。なお依頼は校費で行なわれています。

現在琉大では、複写申し込みを郵送により行っていますが、BLDSCではコンピューターによる申し込み受け付けもはじめており、将来そうした方向への要望が強まれば琉大でも導入を検討する見通しです。

以上文献複写依頼を中心として概説してきましたが、学外の文献を入手したい方の一助となれば幸いです。詳しくは3階参考調査係でお聞き下さい。(参考調査係)

図 書 館 事 情

[第176回図書館運営委員会]

日 時：昭和63年11月14日 (月)

場 所：図書館会議室

議 題：1. 共通図書費に関する図書の整備充実について 2. その他

報告事項：1. 学生用図書の選択について 2. 昭和64年度外国雑誌の購入について 3. 大型コレクションについて 4. 沖縄関係文献資料について 5. 教官研究用図書貸出のあり方について 6. 部局における雑誌購入について 7. 視聴覚機器専門委員会 8. 図書館利用案内編集委員会 9. 定員削減について 10. その他

[出張]

昭和63年9月5日(月) 学術情報係 金城 守

第16回沖縄地区中堅係員研修、人事院沖縄事務所・14日まで

昭和63年9月14日(水) 事務部長 重松多喜造

文部省への事務連絡、東京・15日まで

昭和63年10月23日(月) 医分館整理係長 豊平朝美

昭和63年度第4回目録システム講習会参加、東京・26日まで

昭和63年10月31日(月) 情報管理課長 橋本健一

昭和63年度九州地区国立学校等安全管理協議会出席、熊本・11月3日まで

昭和63年11月6日(日) 整理係 上原恵子

昭和63年度大学図書館職員講習会参加、京都・11日まで

昭和63年11月6日(日) 受入係 榮野川敦

昭和63年度漢籍担当職員講習会(初級)参加、京都・12日まで

昭和63年11月15日(火) 情報管理課長 橋本健一

昭和63年度国立学校事務電算化講習会参加、熊本・19日まで

昭和63年11月16日（水）事務部長 重松多喜造、閲覧係長 宮島惠曠

図書資料の整備状況についての調査、西表・18日まで

昭和63年11月16日（水）学術情報係長 本郷清次郎

第2回国立大学図書館協議会シンポジウム参加、神戸・18日まで

昭和63年11月23日（水）専門員 新井裕丈

第9回大学図書館研究集会出席、東京・25日まで

昭和63年11月23日（水）参考調査係 岡本淳子

第20回国際連合寄託図書館会議出席、東京・25日まで

〔来館者〕

昭和63年9月5日（月）外国人受託修員5名

昭和63年10月25日（火）大阪大学文学部脇田修教授ほか教官・学生20名

昭和63年10月26日（水）文部省学術情報課船戸輝久大学図書館係長 29日まで

昭和63年11月15日（火）国立国会図書館国内協力課鈴木和子主査

〔人事異動〕

〔昭和63年10月1日付〕

館長事務取扱：東江康治（学長）

情報管理課受入係受入主任：比嘉光治（前受入係員）

〔昭和63年11月1日付〕

館長：安富祖忠信（工学部教授）

〔昭和63年度永年勤続者表彰〕

昭和63年11月22日（火）事務部長 重松多喜造（文部省）

分館整理係長 豊平朝美（琉球大学）

〔研 修〕

昭和63年8月12日（金）受入係長 松原敏夫、受入係 比嘉光治 昭和63年度琉球大学会計事務職員専門研修

昭和63年9月29日（木）沖縄県大学図書館協議会実務者研修会

昭和63年10月18日（火）総務係総務主任 上原義光 昭和63年度琉球大学人事事務実務研修、21日まで

昭和63年11月8日（火）整理係長 金城照子、学術情報係長 本郷清次郎 第12回監督者研修（JST標準課程）、11日まで

医学部分館コーナー

〔学術情報センター目録システム実務モード切り替え〕

分館では昭和62年10月1日より閲覧業務が電算化されたのに続いて、本年11月1日より目録システムの实務モードへの切り替えを行いました。今後は学術情報センターとの接続により目録登録を行うことになり事務の合理化がはかられることになりました。

〔第22回運営委員会〕

日 時：昭和63年10月13日（木） 16：00～17：00

場 所：医学部分館 会議室

議 題：1. Current Contents 誌に収録されていない現在購入中24種のコアジャーナルの見直しに伴う新規購入コアジャーナルの選定について 2. 医学科大学院設置に伴う昭和64年度購入コアジャーナルの選定について

報告事項：1. 島田委員の再任について 2. 米須附属図書館長の辞任について 3. 夏季休業中の時間外開館について 4. 第36回九州地区医学図書館協議会総会について 5. 試験期休日開館について 6. その他

〔寄贈図書〕

昭和62年11月から昭和63年11月までにご寄贈いただいた主な分を掲載します。（敬称略）

藤村邦夫

American J. of Surgery, Vol. 131 (1976) —148, 150—154 (1987) 23 Vols.

Annals of Surgery, Vol. 183 (1976)—200, 201—207 (1988) 25 Vols.

The British J. of Surgery, Vol. 63 (1984) —71 (1984) 9 Vols.

The Surgical Clinics of North America, Vol. 54 (1974)—68 (1988)

その他洋書数点

眼科学教室

American J. of Ophthalmology, Vol. 1 (1918) —42 (1956) 42 Vols.

British J. of Ophthalmology, Vol. 58 (1974)—60, 62—64 (1980) 6 Vols.

Experimental Eye Research, Vol. 13 (1972)—15, 22—37, 40—43 (1986) 23 Vols.

Japanese J. of Ophthalmology, Vol. 1 (1983) —14, 20—27 (1983) 22 Vols.

眼科, Vol. 20 (1978) —22 (1980) 3 Vols.

眼科臨床医報, Vol. 73 (1979)—80 (1986) 8 Vols.

日本の眼科, Vol. 53 (1982)—58 (1987) 6 Vols.

日本眼科紀要, Vol. 28 (1977)—30 (1979) 3 Vols.

日本眼科学雑誌. Vol. 77 (1973)—85, 90 (1986) 10 Vols.

臨床眼科. Vol. 30 (1976)—35 (1981) 6 Vols.

〔教官著作寄贈図書〕

瀧下修一（第3内科） 「新しい臨床栄養学」 後藤昌義 瀧下修一共著 南江堂 1988

〔新着図書案内〕

生理学

1. 病気を理解するための生理学・生化学（奥田拓道他編） 金芳堂 1988 分類：QT 4
2. 生理学実習書 改訂第2版（日本生理学会編） 南江堂 1988 分類：QT 25

細菌学

3. 戸田新細菌学 第29版（森良一・天児和暢編） 南山堂 1988 分類：QW 4
4. 細菌学技術叢書 6（日本細菌学会教育委員会編） 菜根出版 1988 分類：QW 5

寄生虫学

5. 臨床寄生虫学 改訂第3版（大鶴正満編） 南江堂 1988 分類：QX 4

臨床病理学

6. 臨床検査MOOK No30（山中學編） 金原出版 1988 分類：QY 5
7. 臨床細菌検査マニュアル（坂崎利一監修） 医典社 1988 分類：QY100

公衆衛生

8. 新しい環境衛生 改訂版（斎藤和雄・上田直利） 南江堂 1988 分類：WA670

臨床医学

9. 救急薬剤ハンドブック 改訂4版（大塚敏文・山本保博） へるす出版 1988 分類：WB 100

アレルギー疾患

10. エイズとの闘い（杉本正信） 東京化学同人 1988 分類：WD308

筋肉骨系

11. 整形外科MOOK No54（伊丹康人・西尾篤人編） 金原出版 1988 分類：WE168

心〔臓〕血管系

12. 万整脈の診かたと治療 第4版（五十嵐正男） 医学書院 1988 分類：WG330

神経系

13. ベッドサイドの神経の診かた 第13版（田崎義昭・斎藤佳雄） 南山堂 1988 分類：WL 141

— ブラウジング・コーナー —

見 解 の 相 違

タクシーに乗って首里から国際通りへ行こうとしたら、ラッシュアワーとかち合って、寸きざみでしか動かない。業を煮やした運転手が言うことには「交通渋滞の元凶はバスですよ。国際通りからバスを追放すべきだ」と。なるほど卓見だと思った。バスに乗って行く人よりも自家用車で行く人の方が数はずっと多い筈である。今流行の多数決原理で、民主的に投票すれば、バス族は少数派だから国際通りからバスは追放される可能性がある。

ある車嫌いの人の話では、「世の中から車を無くすれば、日清や日露の戦役よりも多くの人数が死傷するという交通事故も排気ガス公害もなくなるし、国民の健康上も結構で、歩け運動なんてやる必要は無くなる。また車に乗っている奴は歩いている人を見下している風があって、車優先の横柄で思い上がりがある」ということである。

私はこの二人の意見に感心はしたが、相変らず車を乗り廻し、国際通りへ行く時はできるだけバスを利用するようにしている。
(情報サービス課 T. Y.)

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第21巻 第4号 [通巻第81号]

昭和63年12月1日 発行

発行 琉球大学附属図書館 沖縄県西原町千原1番地

電話 (09889) 5-2221 内線 (2143) 編集 びぶりお編集委員会